専門分野Ⅱ

【　成人看護学　】

授業科目	成人看護学概論	対象学年・時期	１年次・後期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師　★	講義時間	29
		テスト時間	1(45 分)
学習目標	１．成人期における対象を理解する。 ２．成人看護の機能・役割について学ぶ。 ３．成人期における保健活動の意義を理解し、健康の保持増進を図る援助を学ぶ。 ４．健康障害時の健康レベルに応じた看護方法を学ぶ。		

回	主　題	学習内容及び方法	授業方法
１・２回	１．成人、成年、大人とは	１）成人各期の特徴:青年期・壮年期・向老期 ２）身体的・心理社会的な特徴、発達段階・発達課題	講義・演習
３・４回	２．成人保健の動向と健康教育	１）生活状況の特徴,生と死の動向,受療状況 ２）家族形態と機能、社会状況の変化	講義・演習
5回	３．生活習慣病の予防と労働者の保健問題と対策	１）生活習慣病の発症要因と発生状況	講義・演習
6回		２）就労条件、環境と病気 ３）生活ストレスとストレス対処方法、職業性疾患の発生状況と予防	講義・演習
7回	２．成人保健の動向と健康教育	１）成人学習理論（アンドラゴジー）行動変容ステージモデル（自己効力感・内発的動機付け)、エンパワメント	講義・演習
8回	２.成人保健の動向と健康教育 ４．健康レベルからみた成人看護の特徴―慢性期看護―	１）ヘルスプロモーション、経過別看護とは ２）慢性疾患の変遷・特徴・経過プロセス、セルフケア、ストレスコーピング、社会的支援	講義・演習
9回	５．健康レベルからみた成人看護の特徴―急性期看護―	１）急性・重症患者の特徴、家族の特徴 ２）緊急性と重症度のアセスメント、危機的状態への精神的支援、意志決定支援	講義
10 回	６．健康レベルからみた成人看護の特徴―周手術期看護―	１）早期回復促進への看護 ２）ボディーイメージの変容への援助	講義・演習
11 回	７．健康レベルからみた成人看護の特徴-ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護-	１）リハビリテーション、国際生活機能分類（ＩＣＦ)、心理的葛藤、社会参加	講義
12 回	８．健康レベルからみた成人看護の特徴―がん看護―	１）がん手術療法における看護、がん化学療法における看護、がん放射線療法における看護、造血幹細胞移植の看護、緩和ｹｱ	講義
13・14 回	９．健康レベルからみた成人看護の特徴―終末期看護―	１）全人的苦痛、死の受容過程、疼痛アセスメント、家族ケア	講義・演習
15 回	まとめ	１）成人看護の機能・役割	演習
評価方法	筆記試験　　演習課題　　演習参加状況		
テキスト 参考文献	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学総論　成人看護学①（医学書院） 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）		

授業科目	運動機能に障害のある成人の看護 （運動器）	対象学年・時期	２年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	14
		テスト時間	試験別
学習目標	１．運動機能に障害を持つ成人及びその家族の特徴と基本的看護の方法を理解する。		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
１回	1.機能障害の アセスメント	１）姿勢機能障害の原因と程度 ２）移動機能障害の原因と程度 ３）作業機能障害の原因と程度 ４）関節可動域障害・筋力低下の原因と程度	講義
	2.症状とその看護	１）姿勢機能障害による症状とその看護 ２）移動機能障害による症状とその看護 ３）作業機能障害による症状とその看護 ４）疼痛（関節痛・筋肉痛・腰痛・坐骨神経痛）とその看護	
２回	3.検査を受ける患者の看護 4.治療を受ける患者の看護 5.機能障害をもちながら生活する人の看護	１）牽引法を受ける患者の看護 ２）人工関節置換術を受ける患者の看護 ３）ポジショニングを受ける患者の看護	講義
３回		１）椎間板ヘルニアの病期に応じた援助	講義
４回		１）脊椎損傷患者の援助 ２）脊髄造影・椎間板造影を受ける患者の看護	講義
５回		１）四肢切断後の患者の援助（ソフトドレッシング法の実施）	講義・演習
６回		１）膝関節鏡検査・膝関節液検査を受ける患者 の看護 ２）関節リウマチの病期に応じた援助 ３）ギプス固定を受ける患者の看護	講義
７回		１）筋生検を受ける患者の看護 ２）重症筋無力症患者の援助 ３）ギランバレー症候群をもつ患者の援助 ４）筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の援助	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　運動器　成人看護学⑩（医学書院） 系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護（医学書院）
参考文献	系統看護学講座　専門Ⅱ　脳神経　成人看護学⑦（医学書院）

授業科目	運動機能に障害のある成人の看護 （脳・神経）	対象学年・時期	２年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	15
		テスト時間	1（45 分）
学習目標	１．脳神経系に障害を持つ成人及びその家族の特徴と基本的看護の方法を理解する。		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
１回～ ４回	1.機能障害の アセスメント 2.症状とその看護	１）生命維持活動調節機能障害の原因と程度 ２）運動・感覚機能障害の原因と程度 ３）言語機能障害の原因と程度 ４）高次脳機能障害の原因と程度 ５）脳・神経機能障害がもたらす生命・生活への影響 ６）感覚機能障害がもたらす生命・生活への影響	講義
		１）生命維持活動調節機能障害の症状 ２）運動・感覚機能障害の症状 ３）言語機能障害の症状 ４）高次脳機能障害の症状	
５回	3.検査を受ける患者の看護 4.治療を受ける患者の看護 5.機能障害をもちながら生活する人の看護	１）開頭術を受ける患者の看護 ２）脳室ドレナージ（術）中の看護 ３）血管内治療（血栓溶解療法・動脈瘤塞栓術）を受ける患者の援助 ４）脳室－腹腔（V-P）シャント術を受ける患者の看護	講義
６回		１）脳血管障害の病期に応じた援助（クモ膜下出血） ２）低体温療法中の患者の援助	講義
７回		１）脳血管造影を受ける患者の看護 ２）脳波検査を受ける患者の看護 ３）脳腫瘍患者の病期に応じた援助 ４）脳梗塞患者の病期に応じた援助 ５）小脳疾患患者の病期に応じた援助 ６）頭部外傷患者の援助	講義
８回	5.機能障害をもちながら生活する人の看護	１）脳死状態にある人の援助 ２）まとめ	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　脳・神経　成人看護学⑦（医学書院）
参考文献	系統看護学講座　専門Ⅱ　眼　成人看護学⑬（医学書院） 系統看護学講座　専門Ⅱ　耳鼻咽喉　成人看護学⑭（医学書院） 系統看護学講座　専門Ⅱ　歯・口腔　成人看護学⑮（医学書院）

授業科目	生命維持機能に障害のある成人の看護 （がん看護）	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	8
		テスト時間	試験別
学習目標	1．がんに罹患している成人及びその家族の特徴と基本的看護の方法を理解する。		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
1回	1．手術療法の看護	1）手術療法の理解を促す援助 2）手術の意思決定への援助 3）不安のアセスメントと援助	講義
	2．放射線療法の看護	1）放射線療法の理解を促す援助 2）心身状態のアセスメント 3）放射線照射時の観察と援助 4）有害事象に対する症状マネジメント 5）晩期合併症のアセスメントと援助 6）被爆防御	
2回	3．化学療法の看護	1）化学療法の理解を促す援助 2）心身状態のアセスメント 3）抗癌薬投与時の観察と援助 4）有害事象に対する症状のマネジメント 5）長期合併症のアセスメントと援助 6）外来化学療法を受ける患者への援助	講義
3回	4．造血幹細胞移植の看護	1）造血幹細胞移植の理解を促す援助 2）心身状態のアセスメント 3）ドナーの健康状態のアセスメントと援助 4）血液悪性疾患（悪性リンパ腫、白血病）の病期に応じた援助 5）移植病室在室中の患者の援助 6）移植片対宿主病（GVHD）の観察と援助	講義
4回	5．緩和ケア	1）患者ニーズのアセスメント 2）症状マネジメント 3）全人的ケアと予期的悲嘆に対するケア 4）家族ケア 5）緩和ケアチームアプローチ	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　別巻　がん看護（医学書院） 系統看護学講座　専門Ⅱ　血液・造血器　成人看護学④（医学書院）
参考文献	系統看護学講座　専門Ⅰ　臨床看護学総論　基礎看護学④（医学書院） 系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　成人看護学①（医学書院）

授業科目	生命維持機能に障害のある成人の看護 （呼吸器）	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	診療看護師	講義時間	10
		テスト時間	試験別
学習目標	1．呼吸器系に障害を持つ成人及びその家族の特徴と基本的看護の方法を理解する。		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
1回	1. 呼吸器の構造と機能	1）呼吸器の構造 2）呼吸器の機能	講義
	2．機能障害のアセスメント	1）酸素化障害の原因と程度　2）換気障害の原因と程度 3）酸塩基平衡調節機能障害の原因と程度 4）呼吸運動障害の原因の関連因子 5）呼吸機能障害がもたらす生活への影響	
2回	3. 呼吸機能障害がもたらす影響	1）身体的な問題への援助 2）心理的・社会的な問題への援助	講義
	4．症状とその看護	1）酸素化障害の症状 2）換気障害の症状（体位ドレナージ） 3）呼吸運動障害の症状 4）酸塩基平衡調節機能障害による症状	
3回	5. 検査を受ける患者の看護	1）気管支鏡検査（検査前・検査中・検査後の看護） 2）肺生検（検査前・検査中・検査後の看護） 3）呼吸機能検査（検査前・検査後の看護） 4）動脈血液ガス分析（検査前・検査後の看護）	講義
4回	6. 治療を受ける患者の看護	1）肺切除術（患者の特徴、手術前・手術後（胸腔内低圧持続吸引）・回復期） 2）酸素療法（目的・種類・看護） 3）侵襲的陽圧換気（IPPV・NPPV、人工呼吸器の基礎知識・装着中の看護） 4）薬物による治療（抗アレルギー薬・気管支拡張薬・副腎皮質ステロイド、薬物療法における看護）	講義
5回	7. 機能障害をもちながら生活する人の看護	1）肺癌患者の病期に応じた援助（化学療法、放射線療法） 2）肺炎の病期に応じた援助 3）慢性閉塞性肺疾患の病期に応じた援助（急性憎悪時の看護、安定期の看護、看取りに向けての看護） 4）気管支喘息の病期に応じた援助（急性喘息発作時の看護、慢性安定期の看護） 5）結核患者の看護（急性期、慢性期）	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　呼吸器　成人看護学②（医学書院）
参考文献	

授業科目	生命維持機能に障害のある成人の看護 （循環器）	対象学年・時期	2 年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	11
		テスト時間	1（45 分）
学習目標	1．循環器系に障害を持つ成人及びその家族の特徴と基本的看護の方法を理解する。		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
1 回	1．心臓の構造と機能	1）心臓の構造 2）血管の構造と機能 3）循環の調節	講義
	2．機能障害のアセスメント	1）ポンプ機能障害の原因と程度 2）輸送還流障害の原因と程度 3）刺激伝導障害の原因と程度 4）循環機能障害がもたらす生活への影響	講義
2 回	3．症状とその看護	1）ポンプ機能障害の症状 2）輸送還流障害の症状 3）刺激伝導障害の症状	講義
3 回	4．検査を受ける患者の看護	1）心臓カテーテル検査 2）心血管造影検査 3）心電図（12 誘導心電図、ベッドサイドモニター） 4）心エコー検査	講義
4 回	5．治療を受ける患者の看護	1）経皮的冠動脈形成術（手術前・手術後の看護） 2）冠動脈バイパス術（手術前・手術後の看護） 3）弁置換術（手術前・手術後・回復期の看護） 4）大動脈バルーンパンピング（実施中の看護） 5）ペースメーカー植込み（挿入後の看護） 6）植込み型除細動器（挿入後の看護） 7）血栓溶解療法・血栓除去術（手術後の看護）	講義
5 回	6．機能障害をもちながら生活する人の看護	1）心不全患者の病期に応じた援助 （服薬管理とリスク） 2）虚血性心疾患患者の病期に応じた援助 3）不整脈のある患者への援助 4）下肢動脈閉塞症の患者への援助	講義
6 回	7．まとめ	1）試験対策	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　循環器　成人看護学③（医学書院）
参考文献	

授業科目	消化機能、代謝機能に障害のある成人の看護	対象学年・時期	1年次・後期
		単位数	1
		時間数	30
講　師名	看護師	講義時間	15
		テスト時間	1（45分）
学習目標	１．消化器系に障害を持つ成人及びその家族の特徴と基本的看護の方法を理解する。 ２．代謝系に障害を持つ成人及びその家族の特徴と基本的看護の方法を理解する。 ３．内分泌系に障害を持つ成人及びその家族の特徴と基本的看護の方法を理解する。		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
１回	1.医療の動向 2.看護の役割 3.検査を受ける患者の看護	1）消化器看護を学ぶにあたっての医療の動向 2）看護の役割 （身体的・心理的・社会的な問題への援助、家族への援助） 3）造影検査を受ける患者の看護 （経皮経肝胆道造影、胆道胆嚢造影、内視鏡的逆行性胆管膵管造影上部消化管造影、下部消化管造影） 4）内視鏡検査を受ける患者の看護 （上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、腹腔鏡検査） 5）肝シンチグラフィーを受ける患者の看護 6）腹部超音波検査を受ける患者の看護	講義
２回	4.食道の構造と機能 5.食道疾患の理解・患者の看護	1）食道の構造と機能 2）食道がん患者の看護 （手術前・手術後（食道切除後の生活の援助）） 3）胃食道逆流症患者の看護	講義
３回	6.胃・十二指腸の構造と機能 7.胃・十二指腸疾患患者の看護	1）胃・十二指腸の構造と機能 2）胃・十二指腸潰瘍患者の看護 3）胃がん患者の看護 （手術前・手術中・手術後、胃切除後の生活の援助） 4）消化管手術後ドレーン挿入 （閉鎖式・開放式ドレーン）	講義
４回	8.肝臓・胆嚢の構造と機能 9.肝臓・胆嚢疾患患者の看護	1）肝臓の構造と機能 2）胆嚢の構造と機能 3）肝臓がん患者の看護（手術前・手術後） 4）胆嚢炎患者の看護（胆道・胆嚢ドレーン）	講義
５回	10.膵臓の構造と機能 11.膵臓疾患患者の看護 12.化学療法・放射線療法を受ける患者の看護	1）膵臓の構造と機能 2）急性膵炎患者の看護 3）膵臓の手術を受ける患者の看護　（手術前・手術後） 4）化学療法を受ける患者の看護 （施行中の副作用、患者のアドヒアランスを高める援助） 5）放射線療法を受ける患者の看護	講義

		（心理的援助、有害事象に対する看護）	
６回	13.小腸・大腸の構造と機能 14 直腸・肛門の構造と機能 15.腸・腹膜疾患患者の看護	1）小腸・大腸の構造と機能 2）直腸・肛門の構造と機能 3）潰瘍性大腸炎患者の看護（再燃時・回復期） 4）クローン病患者の看護 （活動期・寛解期・寛解維持期） 5）急性腹膜炎患者の看護（手術前・手術後）	講義
７回	16.腸・腹膜疾患患者の看護	1）ヘルニアで手術を受ける患者の看護 2）イレウス（腸閉塞）で手術を受ける患者の看護 3）大腸がん患者の看護 （手術前・手術後・回復期、大腸切除後の生活の援助、人工肛門造設後の生活の援助）	講義
８回	17.術後ベッドの作成 18.まとめ	1）消化器疾患患者の術後ベッドの作成 （手順・根拠・留意点） 2）術後の環境調整	演習（実習室） 講義
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　消化器　成人看護学⑤（医学書院） 系統看護学講座　専門Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学⑥（医学書院）		
参考文献			

授業科目	消化機能、代謝機能に障害のある成人の看護	対象学年・時期	1年次・後期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	14
		テスト時間	試験別
学習目標	１．消化器系に障害を持つ成人及びその家族の特徴と基本的看護の方法を理解する。 ２．代謝系に障害を持つ成人及びその家族の特徴と基本的看護の方法を理解する。 ３．内分泌系に障害を持つ成人及びその家族の特徴と基本的看護の方法を理解する。		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
１回	1.肝機能障害のアセスメント 2. 検査を受ける患者の看護 3.症状とその看護	1）肝機能障害の原因と程度 2）肝生検を受ける患者の看護 3）肝機能障害による症状の把握と援助 （肝性脳症、食道静脈瘤、浮腫・腹水、倦怠感、黄疸、出血傾向）	講義
２回	4. 症状とその看護 5.肝臓疾患患者の看護	1）肝機能障害による症状の把握と援助 （吐血・下血、嘔気・嘔吐、腹痛） 2）肝炎・肝硬変患者の看護 （病期に応じた援助） 3）肝癌患者の看護（病気に応じた援助）	講義
３回	6.代謝機能のアセスメント 7.症状とその看護	1）代謝機能障害の原因と程度 2）代謝機能障害による症状の把握と援助 （肥満、るい痩、痛風発作）	講義
４・５回	8.内部環境調整機能障害のアセスメント 9.検査を受ける患者の看護 10.症状とその看護 11.治療を受ける患者の看護 12.機能障害を持ちながら生活する人の看護	1）①血糖調節機能障害の原因と程度②内部境調節機能障害がもたらす生命・生活への影響 2)①糖負荷試験(OGTT)②血糖自己測定(SMBG) 3）血糖調整機能障害による症状の把握と援助 4）①インスリン補充療法②インクレチン関連薬による治療③糖尿病治療薬による治療④食事・運動療法 5）①Ⅰ型糖尿病の病期に応じた援助②Ⅱ型糖尿病の病期に応じた援助	講義
６・７回	13.機能障害のアセスメント 14.検査を受ける患者の看護 15.症状とその看護 16.治療を受ける患者の看護 17.機能障害を持ちながら生活する人の看護	1）①甲状腺機能障害の原因と程度②副腎機能障害の原因と程度③下垂体機能障害の原因と程度④内分泌機能障害がもたらす生活への影響 2)①ホルモン負荷試験②ホルモン血中・尿中濃度測定検査 3）①甲状腺機能障害による症状の把握と援助②下垂体機能障害による症状の把握と援助 4）①甲状腺ホルモン療法②甲状腺切除術 5）①甲状腺機能障害をもつ患者の援助②甲状腺癌の病期に応じた援助	講義
評価方法	筆記試験		

テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　消化器　成人看護学⑤（医学書院） 系統看護学講座　専門Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学⑥（医学書院）
参考文献	

授業科目	排泄・生殖・免疫機能障害のある成人の看護 （腎・泌尿器　※男性生殖器を含む）	対象学年・時期	２年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	11
		テスト時間	1（45 分）
学習目標	１．腎・泌尿器系に障害のある成人及びその家族の特徴と基本的看護を理解する。		

回	主　題	学習内容及び方法	授業方法
１回	Ⅰ．排泄機能障害のある患者の看護 1．機能障害のアセスメント	１）蓄尿・排尿機能障害の原因と程度の把握 ２）体液量調節機能障害の原因と程度 ３）電解質調節機能障害の原因と程度 ４）酸塩基平衡調節機能障害の原因と程度 ５）排泄機能障害がもたらす生命・生活への影響の把握	講義
２回	2.症状とその看護	１）蓄尿・排尿機能障害による症状の把握と援助 ２）体液量調節機能障害による症状 ３）電解質調節機能障害による症状 ４）酸塩基平衡調節機能障害による症状	講義
３回	3．検査を受ける患者の看護	１）尿流動態検査　２）膀胱鏡検査 ３）腎生検 ４）静脈性尿路造影を受ける患者の援助 ５）腎機能検査（PSP 試験、ﾌｨｯｼｭﾊﾞｰｸﾞ濃縮試験、糸球体濾過量）	講義
４回	4．治療を受ける患者の看護	１）膀胱切除術　　２）前立腺切除術 ３）ホルモン療法 ４）透析療法（維持・腹膜・急性期持続血液濾過 ５）腎移植	講義
５回	5．機能障害をもちながら生活する人の看護	１）排尿機能障害 ２）尿管ストーマ造設後の病期に応じた援助 ３）急性腎不全の病期に応じた援助 ４）慢性腎不全の病期に応じた援助 ５）慢性腎臓病の病期に応じた援助 ６）ネフローゼ症候群の病期に応じた援助 ７）腎移植後の患者への援助	講義
６回	Ⅱ．性・生殖機能障害のある患者の看護	１．機能障害のアセスメント １）不妊の原因と程度 ２．症状とその看護 １）性感染症（STD） ３．機能障害をもちながら生活する人の看護 １）性機能障害	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　腎・泌尿器　成人看護学⑧（医学書院）
参考文献	系統看護学講座　専門Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学⑥（医学書院） 系統看護学講座　専門Ⅱ　女性生殖器　成人看護学⑨（医学書院）

授業科目	排泄・生殖・免疫機能障害のある成人の看護 （女性生殖器）	対象学年・時期	２年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	助産師	講義時間	8
		テスト時間	試験別
学習目標	１．女性生殖機能に障害を持つ成人及びその家族の特徴と基本的看護の方法を理解する。		

回	主　題	学習内容及び方法	授業方法
１回	1. 機能障害のアセスメント	１）性交障害の原因と程度 ２）不妊の原因と程度 ３）性感染症の原因と程度 ４）性・生殖機能障害がもたらす生命・生活への影響	講義
	2. 症状とその看護	１）性交障害症状 ２）性感染症（STD）	
	3. 検査を受ける患者の看護	１）女性生殖器の触診 ２）基礎体温測定法 ３）頸管粘液検査 ４）卵管疎通性検査 ５）乳房腫瘍穿刺吸引細胞診 ６）腹部超音波検査 ７）乳房超音波検査 ８）マンモグラフィー	
２・３回	4. 治療を受ける患者の看護	１）乳腺・子宮・卵巣腫瘍の程度の把握	講義
		１）不妊治療 ２）性感染症治療	
		１）乳房切除術 ２）女性生殖器切除術	
		１）乳癌内分泌療法 ２）化学療法・放射線療法を受ける患者の看護	
４回	5. 機能障害をもちながら生活する人の看護	１）性機能障害がある人の看護 ２）ホルモン欠落症状がある人の看護 ３）乳癌術後慢性リンパ浮腫がある人の看護 ４）更年期障害がある人の看護	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　女性生殖器　成人看護学⑨（医学書院）
参考文献	

授業科目	排泄・生殖・免疫機能障害のある成人の看護 （感染症・アレルギー・膠原病）	対象学年・時期	２年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	10
		テスト時間	試験別
学習目標	１．感染症・アレルギー・膠原病を持つ成人及びその家族の特徴と基本的看護の方法を理解する。		

回	主　題	学習内容及び方法	授業方法
１回	1．機能障害のアセスメント	１）体温調節機能障害の原因と程度 ２）皮膚粘膜障害の原因と程度 ３）免疫機能障害の原因と程度 ４）身体防御機能障害がもたらす生命・生活への影響	講義
２回	2．症状とその看護	１）体温調節機能障害による症状 ２）皮膚粘膜障害による症状（発疹、びらん、潰瘍） ３）免疫機能障害による症状 （易感染、出血傾向、アレルギー反応）	講義
３回	3．検査を受ける患者の看護	１）生検（粘膜、皮膚、筋） ２）スキンテスト・パッチテスト	講義・演習
４回	4．治療を受ける患者の看護	１）抗 HIV 療法 ２）減感作療法 ３）免疫抑制薬、ステロイド療法	講義
５回	5．機能障害をもちながら生活する人の看護	１）低体温症の予防と援助 ２）ヒト免疫不全ウィルス（ＨＩＶ）の病期に応じた援助 ３）アレルギー疾患をもつ人の援助 ４）自己免疫疾患をもつ人の援助	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　膠原病・アレルギー・感染症　成人看護学⑪（医学書院） 系統看護学講座　専門Ⅱ　皮膚　成人看護学⑫（医学書院）
参考文献	

授業科目	成人看護学演習	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師　★	講義時間	30
		テスト時間	課題評価
学習目標	1．看護過程の展開を通して、成人期にある対象の特徴が理解できる。 2．事例を通して、状態に合わせた看護過程の展開ができる。 3．成人期にある対象に適した指導技術の方法が理解できる。 4．成人期にある対象に合わせた看護技術が実施できる。		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
1回	1．成人期にある対象者の特徴の理解	1）・成人期の発達段階 ・消化器疾患（胃がん） ・急性期（周手術期）の看護	講義 演習
2回			
3回 ～ 6回	2．成人期にある対象者の発達段階や健康レベルに応じた看護過程の展開	1）【事例】情報整理と分析	講義 演習
7・8回		1）【事例】看護問題の明確化 （看護診断）	演習 （グループワーク）
9・10回		1）【事例】看護計画立案	演習
11・12回	3．成人期にある対象者の発達段階や健康レベルに応じた看護の実際	1）【事例】 ・看護計画の発表 ・成人期にある対象に合わせた看護技術、学習支援	演習 発表 （ロールプレイ）
13回		1）【事例】看護記録（SOAP） 2）【事例】看護計画の評価	演習
14・15回	4．成人期にある対象に必要な看護技術	1）手術直後の観察 2）早期離床の援助（膀胱内留置ｶﾃｰﾃﾙの挿入・固定・管理　含）	演習（実習室）
評価方法	演習課題、　演習参加状況		
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学総論　成人看護学①（医学書院） 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論（医学書院） 高齢者と成人の周手術期看護　外来/病棟における術前看護（医歯薬出版株式会社） 高齢者と成人の周手術期看護　術中/術後の生体反応と急性期看護（医歯薬出版株式会社） 看護診断ハンドブック（医学書院） ﾍﾝﾀﾞｰｿﾝ・ｺﾞｰﾄﾞﾝの考えに基づく　実践看護アセスメント（ヌーヴェルヒロカワ）		
参考文献	系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学②（医学書院） 根拠と事故防止から見た　基礎・臨床看護技術（医学書院）		

【　老年看護学　】

授業科目	高齢者看護学概論	対象学年・時期	1年次後期
		単位数	1
		時間数	15
講師名	看護師　★	講義時間	14
		テスト時間	1
学習目標	1．高齢者の身体的・精神的・社会的・変化を知りライフステージとその健康課題を理解する 2．高齢者の保健・医療・福祉の場における課題を理解する 3．高齢者の家族の抱える問題について理解する 4．高齢者の尊厳について考え、老年観・人生観をもつことができる		

回	主　題	内　容	授業方法
1回	ライフサイクルからの老年期の理解	1）老年期の定義 2）老年期の位置づけ 3）老年期の発達課題	講義
2回	加齢に伴う変化	老人体験、疑似体験	講義・演習
3回	高齢者の多様性 高齢者と家族	1）老年期の健康の捉え方 2）生活習慣と健康 3）生きがいと生活の満足感 1）家族構成の変化 2）家族形態の変化 3）高齢者と家族の人間関係 4）介護家族の課題	講義
4回	高齢社会の統計的動向 高齢社会における保健医療福祉の動向	1）高齢者とソーシャルサポート 2）保健医療福祉システム ・制度の変遷・介護保険制度・地域包括ケアシステム 3）在宅・施設につなげる看護（地域連携部門）	講義
5回	高齢者の保健医療福祉 施設における看護	1）高齢者の施設サービスにおける看護 2）高齢者の居宅サービスにおける看護	講義
6回	老年看護の特徴 老年看護における理論	1）老年看護の基本（ICF,国連原則） 2）ノーマライゼーション 3）自立支援とエンパワメント 1）サクセスフルエイジング 2）ストレングス	講義
7回	老年看護における倫理的課題	1）高齢者に対するスティグマと差別 2）エイジズム 3）高齢者虐待 4）安全確保と身体拘束 5）権利擁護のための制度	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　　専門Ⅱ　老年看護学（医学書院）
参考文献	老年看護学概論（南江堂）老年看護学概論・老年保健（メヂカルフレンド）

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	高齢者生活援助技術	対象学年・時期	２年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	29
		テスト時間	1（45 分）
学習目標	１．加齢が生活に及ぼす影響について理解する ２．高齢者の健康・自立を支えるための基礎的援助技術を習得する		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
1 回	高齢者の生活機能を支える援助	日常生活を支える基本的活動 （1）高齢者の生活アセスメントと看護 ・基本動作と環境のアセスメント	講義 演習
2 回 3 回	歩行・移動動作	（2）歩行・移動動作に関する援助方法 ・転倒・廃用症候群	
4 回 5 回	食事・食生活	（1）食生活のアセスメント （2）高齢者の食生活への援助方法 ・食事環境・摂食嚥下リハビリテーション ・食前・中・後のケア（嚥下を促す方法） ・口腔ケア（義歯、舌苔のケア）	講義 演習
6 回 7 回	排泄	（1）排泄のアセスメント 排泄リズム、排泄動作、排尿障害、排便障害 （2）排泄のための自助具の援助方法 ・ポータブルトイレを用いた援助	講義 演習
8 回 9 回	清潔	（1）清潔行為・更衣動作のセルフケア能力のアセスメント （2）高齢者の清潔に関する援助方法 ・入浴介助・フットケア・耳のケア	講義 演習
10 回 11 回	生活リズム	（1）生活リズムのアセスメント （2）高齢者の生活リズムを整える援助方法 ・昼間のケア・夜間のケア（睡眠薬の使用方法）	講義 演習
12 回 13 回 14 回	コミュニケーション	（1）コミュニケーション能力のアセスメント （2）高齢者とのコミュニケーションとかかわり方、状態・状況に応じたコミュニケーションの方法 ・聴覚障害（老人性難聴）・失語症・構音障害 ・視覚障害	講義 演習
15 回	8) セクシュアリティ	（1）高齢者におけるセクシュアリティ	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護講座　専門Ⅱ　老年看護学　（医学書院） 系統看護講座　専門Ⅱ　老年看護　病態・疾病論　（医学書院）
参考文献	

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	健康障害のある高齢者の看護	対象学年･時期	２年次･前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	29
		テスト時間	1 （45 分）
学習目標	１．高齢者の健康障害の特徴と援助方法を理解する。 ２．高齢者に多い疾患の看護を理解する。 ３．治療を受ける高齢者の看護を理解する。 ４．高齢者の終末期の看護を理解する。 ５．高齢者を介護する家族への看護を理解する。		

回数	主題	授業計画・内容	授業方法
1 回	高齢者の健康障害の特徴	１）健康逸脱からの回復を促す看護	講義・演習
2 回 3 回	高齢者に特徴的な症候･疾患障害と看護	２）症状のアセスメントと看護 (1)低栄養　(2)　脱水症　(3)瘙痒症 (4)廃用性症候群　(5)褥瘡	
4 回 5 回	身体疾患のある高齢者の看護	(1)パーキンソン症候群　(2)肺炎 (3)感染症　(4)骨粗鬆症・骨折	
6 回 7 回	認知機能障害のある高齢者の看護	(1)せん妄　(2)うつ病　(3)認知症	
8 回	治療を受ける高齢者の看護	３）薬物療法 (1)加齢に伴う薬物動態の変化 (2)服薬管理とリスク	
9 回		４）手術療法 (1)手術療法を受ける高齢者の援助	
10 回		５）リハビリテーション (1)リハビリテーションを受ける高齢者の看護	
11 回	受療形態に応じた高齢者の看護	６）入院治療を受ける高齢者の看護 ７）地域連携における退院時の看護	
12 回 13 回	高齢者の終末期の看護	８）高齢者の死に関わる権利の擁護 (1)アドバンスケアプランニング (2)リビングウィル(3)エンドオブライフケア ９）終末期看護の実践 (1)身体兆候　(2)苦痛の緩和と合併症予防 (3)臨死期の評価　(4)家族への看護	
14 回 15 回	治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	１０）高齢者を介護する家族への看護 (1)要介護高齢者と家族の役割 (2)介護者の健康と介護力	

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護講座　専門Ⅱ　老年看護学　(医学書院) 系統看護講座　専門Ⅱ　老年看護　病態・疾病論　(医学書院)
参考文献	

授業科目	高齢者看護学演習	対象学年・時期	２年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師　★	講義時間	30
		テスト時間	課題評価
学習目標	1. 高齢者の特徴を踏まえて事例を通して看護過程が展開できる 2. 高齢者に対する基本的な援助技術を理解する 3. 社会資源を活用した看護の展開を理解する		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
１回	１．脳梗塞で入院した高齢者の特徴を理解する ２．脳梗塞で入院した高齢者に必要な治療・看護を理解する	1）事例を理解するために必要な知識 ・情報で注目すべきポイントの確認 ・情報を分析・解釈するために必要な知識	講義 DVD 視聴
2 回	３．事例による看護過程の展開を行う	1）事例の理解 ・病態関連図　　・情報の収集	講義 演習
3 回～ 5 回		1）事例の理解 ・情報の整理・分析	演習　講義
6 回		1）事例に応じた看護援助の方法を考える 2）看護問題の明確化 3）看護問題・共同問題の抽出	演習　講義
7 回～ 9 回		1）事例に応じた看護援助の方法を考える ・看護計画立案	演習　講義
10 回		発表・まとめ 1）事例に応じた看護援助の方法を考える ・立案した看護計画 ・期待される結果、看護介入の内容	演習　講義
11 回 12 回	４．事例患者に必要な社会資源の活用・退院支援について理解する	1）社会資源の活用について ・地域の社会資源の実態 ・事例患者の社会資源、退院に向けた支援についてカンファレンスを通して考える	講義　演習 （グループ）
13 回		1）課題発表　　まとめ	演習 （グループ）
14 回	５．高齢者に対する基本的な技術を理解する	ロールプレイングで実施する看護実践場面の設定と計画	演習 （グループ）
15 回		対象に応じた援助の実施・評価 看護実践ロールプレイング発表	看護実践演習 実習室
評価方法	個人・グループワーク課題　演習参加状況		
テキスト	1）系統看護講座　専門Ⅱ　老年看護学　医学書院 2）系統看護講座　専門Ⅱ　老年看護　病態・疾病論　医学書院 3）ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく看護実践アセスメント第３版		
参考文献	1）根拠がわかる老年看護技術 2）介護保険　わかりやすい利用の手引き（高崎市）		

【　小児看護学　】

授業科目	小児看護学概論	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	15
講師名	看護師　★	講義時間	14
		テスト時間	1（45分）
学習目標	１．小児期にある対象を理解する。 ２．小児の特徴や成長・発達を理解する。 ３．小児看護の役割・機能を理解する。 ４．子どもの権利を保障することの必要性について理解する。		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
１回	小児の特徴 小児を取り巻く医療の変遷 小児看護とは	１）発達からみた小児期の区分 ２）子ども観の変遷 ３）小児医療・小児看護の変遷 ４）保健統計からみた小児	講義
２回		５）小児を取り巻く環境 ６）小児看護の対象 ７）小児看護の場と看護の特徴 ８）小児看護の課題	講義
３回	小児看護における倫理	１）子どもの権利条約 ２）子どもの自己決定権 ３）小児医療の場と子どもの権利	講義
４回	小児の成長･発達段階に応じた日常生活	１）成長･発達の原則と影響因子 ２）発達の評価と家族環境アセスメント ３）生活を支える形態的成長	講義
５回		４）生命を維持し恒常性を保つ機能の発達 ５）子どもの発達に伴う生活行動の変化	講義
６回	小児看護における概念と理論	１）子どもの心理・社会的発達 成長･発達に関する概念と理論 家族関係に関する概念と理論	講義
７回	小児の栄養	１）子どもにとっての栄養の意義 ２）食事摂取基準 ３）発達段階別の子どもの栄養特徴と看護	講義
	子どもと法律	１）子どもを守る法律と制度	

評価方法	筆記試験　演習参加状況
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護概論 小児臨床看護総論 小児看護学②（医学書院）
参考文献	

授業科目	子どもの成長・発達に応じた看護	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	25
		テスト時間	1（45分）
学習目標	1．小児保健と小児を保護する法律について理解できる。 2．子どもの発達段階に応じた健康増進の看護について学ぶことができる。 3．小児と家族を取り巻く社会を理解できる。		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
1～2回	母子保健と小児保健	1）小児の保健統計 2）母子保健の動向 3）小児を保護する法律 ・児童福祉法　・母子保健法 ・医療費の支援　・予防接種	講義
3～9回	子どもの発達段階に応じた健康増進のための看護	1）新生児の養育および看護 ・新生児の健康増進と安全な環境の提供 ・新生児の子どもをもつ家族への看護	講義
		2）乳児の養育および看護 ・乳児のセルフケアの発達と看護 ・乳児によくみられる健康問題 ・乳児のいる家族への看護 3）幼児の養育および看護 ・幼児期の基本的・社会的生活習慣獲得への支援 ・幼児期の子どもをもつ家族への援助	講義
		4）学童の養育および看護 ・学童期の子どものセルフケアの発達と看護 ・学童によくみられる健康問題 ・学童期の子どもをもつ家族への看護	講義
		5）思春期の看護 ・思春期の特徴とセルフケアへの援助 ・心理・社会的適応に関する問題と援助 ・思春期の子どもをもつ家族への看護	講義
10回	子どもの事故・外傷	1）子どもの行動の特徴と子どもの事故・外傷 2）発達段階に合わせた事故防止対策	講義
11～13回	子どもに合わせた遊びの援助	1）子どもの発達段階と遊びの特徴 2）発達段階に合わせた遊びの援助	講義 演習

評価方法	筆記試験　演習参加状況
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護概論 小児臨床看護総論 小児看護学①（医学書院） 系統看護学講座　専門Ⅱ　小児臨床看護各論　小児看護学②（医学書院）
参考文献	目で見る子どもの病気の地図

授業科目	子どもの成長・発達に応じた看護	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	4
		テスト時間	試験別
学習目標	１．子どもの発達段階に応じた健康増進の看護について学ぶことができる。 ２．小児と家族を取り巻く社会を理解できる。 ３．障害のある子どもと家族の看護を理解できる。		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
１回	障害のある子どもと家族の看護	１）障害の捉え方 ２）障害のある子どもと家族の特徴 ３）障害のある子どもの発達段階に応じた看護	講義
２回		４）障害のある子どもと家族の社会的支援 ・チームアプローチの重要性 ・看護師の役割	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護概論 小児臨床看護総論 小児看護学①（医学書院） 系統看護学講座　専門Ⅱ　小児臨床看護各論　小児看護学②(医学書院)
参考文献	目で見る子どもの病気の地図

授業科目	健康障害のある子どもの看護	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	15
		テスト時間	1（45分）
学習目標	１．健康障害を持つ子どもや家族に必要な看護について理解できる。 ２．子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護の方法が理解できる。 ３．子どもの疾病の経過とその看護について理解できる。 ４．症状を示す子どもの看護について理解できる。		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
１～２回	病気・障害をもつ子どもと家族の看護	１）健康障害が子どもと家族に与える影響 ・病気・障害に対する子どもの反応 ・子どもの病気・障害に対する家族の反応	講義
３～５回	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	１）入院中の子どもと家族の看護 ・入院環境と看護の役割 ・入院中の子どもと家族の特徴と看護	講義
		２）外来における子どもと家族の看護 ・外来の特徴と看護の役割 ・外来を受診する子どもと家族の特徴と看護	講義
		３）在宅療養中の子どもと家族の看護 ・在宅療養の環境と看護の役割 ・在宅療養中の子どもと家族の特徴と看護	講義
		４）災害時の子どもと家族の看護 ・被災地の環境と看護の役割 ・災害時の子どもと家族の特徴と看護	講義
６～８回	治療処置・検査を受ける子どもの看護	１）子どもへの説明と同意 ・与薬　・輸液管理 ・経管栄養　・呼吸症状の緩和	講義
	子どもの虐待と看護	１）子どもの虐待の現状と対策 ２）虐待が子どもに与える影響 ３）被虐待児および家族に対する援助	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護概論 小児臨床看護総論 小児看護学①（医学書院） 系統看護学講座　専門Ⅱ　小児臨床看護各論　小児看護学②（医学書院）
参考文献	

授業科目	健康障害のある子どもの看護	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	14
		テスト時間	試験別
学習目標	１．健康障害を持つ子どもや家族に必要な看護について理解できる。 ２．子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護の方法が理解できる。 ３．子どもの疾病の経過とその看護について理解できる。 ４．症状を示す子どもの看護について理解できる。		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
１回	子どもの健康問題と看護	１）健康問題をもつ子どもと家族の看護 ２）子どもの治療・健康問題にかかわる看護 ３）子どもの日常生活にかかわる看護 ４）健康問題をもつ子どもの家族の看護	講義
２～５回	子どもにおける疾病の経過と看護	１）慢性期にある子どもと家族の看護 ・慢性期の特徴 ・慢性状態が子どもに与える影響 ・子どもと家族の看護	講義
		２）急性期にある子どもと家族の看護 ・急性期の特徴 ・子どもと家族の看護	講義
		３）周手術期の子どもと家族の看護 ・周手術期の特徴 ・子どもと家族の看護	講義
		４）終末期における子どもと家族の看護 ・終末期の特徴 ・子どもの生命・死についてのとらえ方 ・子どもと家族の看護	講義
６～７回	症状を示す子どもの看護	１）痛み　　４）下痢 ２）発熱　　５）脱水 ３）嘔吐	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護概論 小児臨床看護総論 小児看護学①（医学書院） 系統看護学講座　専門Ⅱ　小児臨床看護各論　小児看護学②（医学書院）
参考文献	

授業科目	小児看護学演習	対象学年・時期	2年次・後期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師　★	講義時間	30
		テスト時間	課題評価

学習目標	
	１．子どもの成長･発達についてアセスメントする。 ２．子どもに適した入院環境と病気･入院が小児と家族に与える影響について理解する。 ３．子どもに対する特徴的な基本的看護技術を習得する。

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
１回	病気や入院がこどもと家族に与える影響とその看護	１）病気や入院が子どもにあたえる影響 ２）子どもの病気の理解と受容 ３）入院適応に向けての看護 ・プレパレーションとは	講義
２回	成長･発達に応じた子どもの看護過程の展開	１）子どものアセスメントの視点について（ゴードン） ２）情報の整理【事例】(2事例)	講義 演習
３～５回		１）情報の整理と分析【事例】	演習
６～７回		１）関連図・看護問題の明確化【事例】 ２）看護計画立案【事例】	演習
８～９回	成長･発達に応じた子どもの看護技術	１）子どものバイタルサイン測定 ２）対象に合わせたバイタルサイン測定【事例】	演習
10～11回	小児看護に必要な技術	１）コミュニケーション技術 ２）小児のバイタルサイン測定 ３）小児特有の検査（採血・採尿） ４）酸素療法 ５）小児の与薬･薬液吸入 ６）点滴の固定 ７）保育器の管理	演習
12～14回	成長･発達に応じた子どもの看護技術	１）対象に合わせたプレパレーション【事例】 ２）指導	演習
15回	成長･発達に応じた子どもの安全管理	１）小児用ベッドの安全 ２）KYTシート	講義

評価方法	演習課題　演習参加状況
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護概論 小児臨床看護総論 小児看護学②（医学書院） 系統看護学講座　専門Ⅱ　小児臨床看護各論 小児看護学②（医学書院）
参考文献	写真でわかる小児看護技術

【　母性看護学　】

授業科目	母性看護学概論	対象学年・時期	２年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	助産師	担当時間数	29
		テスト時間	1（45 分）
学習目標	１．母性看護の概念が理解できる。 ２．母性看護の倫理と法律について理解できる。 ３．母性看護の対象が理解できる。		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
１・２回	１．母性看護の基盤となる概念	１）母性とは （１）母性の発達 ２）親になること	講義
３回	２．リプロダクティブヘルス	１）リプロダクティブヘルスとは （１）性的権利 （２）リプロダクティブヘルスの基本的要素	講義
４・５回	３．母性看護の対象	１）身体的・精神的・社会的特徴 （１）妊婦体験 ２）家族のアセスメント	演習 講義
６・７回	４．母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	１）母子保健統計の動向 ２）母性看護と法律 ３）子育て支援	講義
８・９ １０回	５．母性看護の対象理解	１）女性のライフサイクル （１）思春期：身体的・心理的・社会的特徴、 （２）成熟期：家族計画、女性生殖器疾患と看護 （３）更年期：更年期女性の特徴、ホルモン変化と閉経 （４）老年期：老年期女性の特徴、女性に影響する加齢現象	講義
１１ １２ １３回	６．リプロダクティブヘルス・ケア	１）リプロダクティブヘルス・ケア （１）家族計画（２）性感染症（３）人工妊娠中絶 （４）喫煙　（５）ＤＶ　（６）ＨＩＶ	講義
１４ １５回	７．母性看護における倫理	１）母性看護における倫理的問題 ２）権利擁護 ３）まとめ	講義 グループワーク ディスカッション

評価方法	課題および試験
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学概論　母性看護学①（医学書院）
参考文献	

授業科目	正常な経過をたどる妊産褥婦の看護 （妊娠）	対象学年・時期	２年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	助産師	担当時間数	10
		テスト時間	試験別
学習目標	１．妊娠期における身体的・心理的・社会的特徴を理解できる ２．正常な妊娠のアセスメントが理解できる ３．妊婦への看護と保健指導について理解できる		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
１回	１．正常な妊娠の経過	１）妊娠の成立 ２）妊娠の経過と胎児の発育 ３）母体の生理的変化 ４）妊婦と家族の心理・社会的変化 ５）妊娠による不快症状　マイナートラブル	講義
２回	２．妊娠のアセスメント	１）妊娠週数による変化 ２）妊婦の健康状態 （１）健康診査時の援助 ３）胎児の発育と生理、発育と評価 （１）胎児の健康状態の把握のための検査 （ノンストレステスト、分娩監視装置を含む）	講義
３・４回	３．妊娠中の健康管理と看護	１）日常生活に関するアセスメントと援助 （１）妊婦の日常生活とセルフケア（保健指導を含む） （２）食事と栄養（２）排泄（３）活動と休息 （４）清潔　（５）嗜好品（６）性生活 ２）妊婦健康診査	講義
５回	４．妊婦と家族への看護	１）食生活の教育 ２）健康維持・増進、セルフケアに関する教育 日常生活動作 ３）マイナートラブルへの対処 つわりのケア　下肢静脈瘤の予防 ４）母親・父親になることへの援助 ５）出産の準備 ６）育児の準備	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学②（医学書院）
参考文献	

授業科目	正常な経過をたどる妊産褥婦の看護 （分娩）	対象学年・時期	２年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	助産師	担当時間数	10
		テスト時間	試験別
学習目標	１．分娩の要素・経過について理解できる ２．正常な分娩のアセスメントが理解できる ３．正常な分娩時の看護が理解できる		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
１回	１．分娩の要素	１）分娩とは ２）分娩の３要素 ３）胎児と子宮および骨盤との関係 ４）分娩の機序	講義
２回	２．分娩の経過	１）分娩の進行と産婦の身体変化 ２）産痛 ３）胎児に及ぼす影響 ４）産婦の心理・社会的変化	講義
３回	３．胎児、家族のアセスメント	１）産婦と胎児の健康状態のアセスメント （１）分娩経過と進行　陣痛、産痛　産道　破水 （２）胎児の健康状態 （３）連続的胎児心拍数モニタリング ２）産婦と家族の心理・社会面のアセスメント	講義
４回	４．産婦と家族の看護	１）看護目標と産婦のニード ２）安全分娩への看護 ３）安楽な分娩への看護 ４）出産が肯定的になるための看護 ５）基本的ニードに関する看護	講義
５回	５.分娩期の看護の実際	１）分娩期の看護の実際 （１）分娩１期・２期・３期・４期の看護 （２）産痛緩和　呼吸法・マッサージ法を含む	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学②（医学書院）
参考文献	ビデオ：いのちの誕生～産む力と生まれる力～

授業科目	正常な経過をたどる妊産褥婦の看護 （　産褥・新生児　）	対象学年･時期	２年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	助産師	担当時間数	9
		テスト時間	1（45 分）
学習目標	１．正常な産褥経過が理解できる ２．産褥期・新生児期のアセスメントが理解できる ３．褥婦・新生児の看護が理解できる		

回数	主題	学習内容および方法	授業方法
1回	１．産褥期とは ２．褥婦のアセスメント	１）身体的変化（退行性変化・進行性変化） ２）心理・社会的変化 １）産褥経過の診断 ２）褥婦の健康状態のアセスメント	講義
２回	３．褥婦と家族の看護	１）身体機能の回復への看護 （１）セルフケア不足に対する看護 （２）退行性変化・進行性変化への看護 （３）セルフケア能力を高める看護 ２）児との関係確立への看護 ３）育児に関わる看護 （１）授乳・児の清潔・児の健康管理 ４）家族関係再構築への看護 （１）上の子どもへの対応・夫(パートナー)への対応	講義
３回	４．施設退院後の看護 ５．新生児の生理と機能	１）育児不安と育児支援 ２）職場復帰 １）新生児とは （１）新生児の定義・体格・姿勢 ２）新生児の機能 （１）子宮外適応現象とは （２）呼吸・循環・体温・消化・吸収・代謝・黄疸	講義
４回	６．新生児の機能とアセスメント ７．新生児の健康状態のアセスメント	１）新生児の機能 （１）腎機能（２）免疫（３）皮膚（４）反射 （５）感覚機能 １）新生児のアセスメント　・新生児の診断 （１）基本的情報の収集 （２）子宮外生活への適応状態のアセスメント （３）新生児の生活のアセスメント	講義
５回	８．新生児の看護	１）出生直後から退院時までの看護 ２）生後１か月健康診査に向けた退院時の看護	講義 45 分

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学②　母性看護学各論（医学書院）
参考文献	新体系看護学全書 33　母性看護学②妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護(ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社) 病気がみえる vol.10　産科　第２版　(MEDIC MEDIA)

授業科目	異常な経過をたどる妊産褥婦の看護 （妊娠・分娩・産褥・新生児）	対象学年・時期	２年次・後期
		単位数	1
		時間数	15
講師名	助産師	担当時間数	10
		テスト時間	1(45 分)
学習目標	１．妊娠期の異常が理解できる ２．異常な妊娠経過をたどる妊婦の看護が理解できる		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
１回	１．ハイリスク妊娠	１）妊娠合併症 （１）妊娠悪阻　（２）妊娠貧血　（３）妊娠糖尿病 （４）胎位の異常（５）多胎妊娠 ２）切迫流・早産 ３）胎盤の異常　①常位胎盤早期剥離　②前置胎盤 ４）妊娠高血圧症候群 ５）妊婦と家族への看護ケア	講義
２回	２．異常のある産婦の看護	１）前期破水・早期破水 ２）分娩時異常出血 ３）胎児機能不全 ４）陣痛異常（微弱陣痛、過強陣痛）	講義
３回	３．異常分娩時の産婦の看護	１）帝王切開術を受ける産婦の看護 ２）骨盤位分娩時の看護 ３）急速遂娩を受ける産婦の看護 ４）分娩時異常出血のある産婦の看護	講義
４回	４．産褥の異常と看護	１）異常な症状と看護 （１）子宮復古不全（２）産褥熱（３）乳房トラブル （４）尿路感染、排尿障害　（５）産後精神障害 ２）母子分離の状況における看護 ３）帝王切開術後の看護 ４）死産、障害を持つ新生児を出産した褥婦と家族への看護ケア	講義
５・６回	５．新生児の異常と看護	１）先天異常 ２）早産児・低出生体重児 ３）新生児一過性多呼吸 ４）呼吸窮迫症候群 ５）胎便吸引症候群 ６）高ビリルビン血症 ７）新生児・ビタミンＫ欠乏性 ８）低血糖	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学②（医学書院）
参考文献	

授業科目	異常な経過をたどる妊産褥婦の看護	対象学年・時期	２年次・後期
		単位数	1
		時間数	15
講師名	医師	担当時間数	4
		テスト時間	試験別
学習目標	１．分娩時の異常が理解できる ２．異常な分娩時の看護について理解できる		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
１回	１．ハイリスク分娩	１）産道の異常 ２）娩出力の異常 ３）胎児およびその付属物の異常 ４）異常出血	講義
２回	２．産科処置・手術	１）会陰切開術 ２）急速分娩・遷延分娩 ３）帝王切開術	講義

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学②（医学書院）
参考文献	

授業科目	母性看護学演習	対象学年・時期	2年次・後期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	助産師　★	担当時間数	30
		テスト時間	課題評価
学習目標	1. 産褥期・新生児の対象を、ウエルネスの考えを含めた看護過程の展開方法が理解できる 2. 母性看護に必要な看護技術が習得できる		

回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
1回	1. 母性看護における看護過程の考え方	1)ウエルネス看護診断の考え方 2)母性看護における対象理解の視点	講義
2回	2. 妊娠期のアセスメント	1)妊娠期のアセスメントの視点 (1)妊娠週数に応じた身体・心理的変化	講義 個人ワーク
3回	3. 妊娠期の援助技術	1)レオポルド触診法 2)児心音聴取 3)子宮底・腹囲測定	演習 ＜実習室＞
4回	4. 分娩期のアセスメント	1)分娩経過に応じたアセスメント	講義 個人ワーク
5回	5. 褥婦のアセスメント	1)産褥日数に応じた身体・心理的変化	講義 個人ワーク
6回	6．新生児のアセスメント	1)新生児の看護過程:看護計画	講義 個人ワーク
7・8回	7. 新生児の援助技術	1)沐浴・臍処置・更衣・おむつ交換 2)新生児の抱き方・寝かせ方　・ビン哺乳・排気のさせ方 3)新生児のバイタル測定	演習 ＜実習室＞
9回	8. 褥婦・新生児のアセスメント	1)褥婦・新生児のアセスメント	講義
10回	9.産褥期の看護計画	1)目標　2)具体的援助　O-P・T-P・E-P	講義
11回	10. 子宮復古の観察と授乳手技獲得への援助	1)産褥日数による子宮底の変化と観察方法 (1)子宮復古を促す援助 2)乳房の観察、含ませ方、抱き方への援助 (1)乳汁分泌促進への援助	講義
12回	11. 帝王切開術による分娩の看護	1)術前・中・後の特徴	講義
13 14 15回	12. 母性看護に必要な指導について	1)産褥期の保健指導 (1)指導内容のアセスメント (2)ロールプレイ発表準備	グループワーク 発表

評価方法	課題（看護過程・演習課題）
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学②　母性看護学各論（医学書院）
参考文献	ウェルネスからみた母性看護過程第3版（医学書院） ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程　第3版（医歯薬出版）

【　精神看護学　】

授業科目	精神看護学概論	対象学年・時期	２年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	29
		テスト時間	1(45 分)
学習目標	１．精神看護の変遷を知り、精神看護学の概念を理解する。 ２．精神の発達に関する主要な考え方について理解する。 ３．精神看護の対象および看護の役割を理解する。		

回	授業計画 ・ 内容	授業方法
1回	1. 精神看護学の基本的な考え方	講義
2 回	2. 脳の仕組みと認知機能 1)精神の構造とはたらき	講義
3 回 4 回	3. 精神の発達と健康 1)ライフサイクルと発達課題	講義
5 回 6 回	4. 精神保健の考え方 1)精神保健における予防概念 2)リカバリーを支える力 (1)レジリエンス　(2)ストレングス　(3)エンパワメント	講義 演習
7 回 8 回	5. 社会のなかの精神障害 1)精神医療の歴史 2)精神障害と法制度 (1)精神保健福祉法による入院形態	講義
9 回	6. 精神科での治療 1)精神科における治療の特徴 2)薬物療法　3)精神療法　4)社会療法	講義
10 回 11 回 12 回 13 回	7. 看護の倫理と人権擁護 1)精神看護における看護の役割 (1)治療的関わりの考え方 (2)治療的環境の整備 (3)日常生活行動の援助 (4)服薬治療に関わる援助 (5)事故防止	講義
14 回	8. 地域精神保健活動における社会資源の活用 1)就労支援	講義
15 回	9. 災害時における精神保健医療活動 試験	講義
評価方法	ミニテスト、課題レポート、筆記試験	
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の基礎(医学書院) 系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の展開(医学書院)	
参考文献		

授業科目	精神看護援助技法	対象学年・時期	２年次・後期
		単位数	1
		時間数	15
講師名	看護師	講義時間	15
		テスト時間	課題評価
学習目標	１．精神看護の基本法を学び、対象理解および援助に必要な働きかけ方を理解する。		

回	授業計画・内容	授業方法
1回	１．精神障害をもつ人との関わり方 １）「患者－看護師」関係	講義
2回	２）関係構築にあたっての基本的な態度	講義
3回	２．精神障害をもつ人とのコミュニケーション １）コミュニケーションの種類と特徴 ２）精神障害をもつ人とのコミュニケーションの特徴 ３）接近、接触技法	講義 演習
4回5回	３．精神障害をもつ人との関係の振り返り １）振り返ることの意味 ２）プロセスレコード	講義
6回	３）プロセスレコード	演習
7回8回	４．回復を支えるプログラム １）社会生活技能訓練（SST） ２）認知行動療法	講義 演習

評価方法	演習課題、演習参加状況
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の基礎(医学書院) 系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の展開(医学書院)
参考文献	

授業科目	精神障害のある対象の看護	対象学年・時期	２年次・後期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	29
		テスト時間	1（45 分）
学習目標	１．精神看護の基本法を学び、対象理解および援助に必要な働きかけ方を理解する。		

回	授業計画・内容	授業方法
1 回	１．精神障害をもつ人への看護 １）精神科病棟という治療的環境と患者の生活	講義
2 回 3 回	２）統合失調症および妄想性障害　　３）気分（感情）	講義
4 回	４）神経症性障害、ストレス関連障害 （１）不安障害　（２）強迫性障害 （３）重度ストレス反応および適応障害　（４）解離性障害	講義
5 回	５）生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 （１）摂食障害　（２）睡眠障害　（３）性同一性障害 ６）パーソナリティ障害	講義
6 回	７）アルツハイマー型認知症　８）アルコール症 ９）てんかん	講義
7 回 8 回	１０）知的障害　　１１）心理的発達の障害 １２）小児期・青年期に発症する行動、情緒の障害	講義
9 回	２．診察・検査および治療に伴う看護 １）診察に伴う看護　２）臨床検査　３）心理検査	講義
10 回	３．薬物療法・電気けいれん療法 １）薬物療法に伴う看護 ２）電気けいれん療法を受ける患者の看護 ４．精神療法 １）個人療法２）集団精神療法	講義
11 回	５．家族への看護 １）患者―家族関係　　２）家族への教育的介入と支援	講義
12 回	６．社会復帰への支援 １）国際生活機能分類（ICF）の視点　２）精神看護における社会資源　　３）地域移行への支援	講義
13 回	７．安全な治療環境の提供 １）病棟環境の整備と行動制限　隔離・身体的拘束時の看護 ２）暴力予防プログラム３）災害時の安全確保	講義
14 回	８．リエゾン精神看護 １）リエゾン精神看護の歴史　　２）リエゾンナースの役割	講義
15 回	まとめ・試験	

評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の基礎（医学書院） 系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の展開（医学書院）
参考文献	

授業科目	精神看護学演習	対象学年・時期	3年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	30
		テスト時間	課題評価
学習目標	１．精神障害をもつ対象の看護過程を展開する方法を学ぶ。 ２．地域で生活するために必要な保健福祉サービスを理解する。 ３．精神障害をもつ人の地域生活移行における看護の役割を理解する。		

回	授業計画・内容	授業方法
1回	精神疾患患者の特徴	講義
2回	演習事例の理解	講義
3回 4回	統合失調症の事例：情報の整理、分析	講義・演習
5回 6回	統合失調症の事例：情報の整理、分析	講義・演習
7回 8回	統合失調症の事例：看護問題・共同問題の抽出	講義・演習
9日 10回	統合失調症の事例：看護計画の立案	講義・演習
11回	統合失調症の事例：看護計画の立案	講義・演習
12回	統合失調症の事例：実施（プロセスレコード）	講義・演習
13回	統合失調症の事例：プロセスレコードの評価	講義・演習
14回	精神障害をもつ人の地域における生活への支援	講義
15回	精神障害をもつ人の地域における生活への支援	講義

評価方法	演習課題、演習参加状況
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の基礎(医学書院) 系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の展開(医学書院)
参考文献	